

だれも知らない、ほんやつの生物多様性問題  
シンポジウム

2010年7月24日(土)

13:10-17:00 受付開始 12:40

京大会館 210号室

(京都市左京区吉田河原町 15-9) ※地図は裏面に

第10回生物多様性条約締約国会議(通称COP10 to CBD)を目前に控えても、生物多様性とは何のことか、生物多様性にはどんな価値があるのか、わかりにくいという話をよく聞きます。専門家として説明を求められても、しばしば言葉に詰まります。

生物多様性は大切ですよ、という、なんとなく同意は得られます。しかし、「農業害虫」や「害獣」、病原生物までも「多様な」自然界のメンバーとして大切にせねばならないのか、と問われたとき、「正しい答え」はあるのでしょうか。

では、生物多様性はほんとうに大事なのか。誰のために大事なのか。実際の多様な生物が生きていることへの関心というよりは、政治的カードの色合いが強く感じられることもあります。私たちは、「生物多様性の保全」に取り組むべきなのでしょうか。

多様な樹種からなる森づくりの研究や実践に携わってきたNPOとして、生物多様性とは何なのか、どのような意義を持つのか、俯瞰的な視点や総論ではなく、現場の精緻な実践的リアリティを伝え、そして議論する場を提供します。

講演

「生物多様性を受け入れる生き方・考え方」

神松幸弘(総合地球環境学研究所)

「食卓から熱帯雨林まで」

湯本貴和(総合地球環境学研究所/CRRN)

「地域性種苗を用いる必要性をブナで考えた」

小山泰弘(長野県林業総合センター)

円卓会議

司会進行

今村彰生(京都学園大学バイオ環境学部/CRRN)

討論者: 神松、湯本、小山、高田研一(CRRN)、会場の皆さま



参加費無料(事前申込み不要)

主催・問合せ先

特定非営利活動法人 森林再生支援センター(CRRN)

E-mail: info@crrn.net TEL/FAX: 075-432-0026 URL: http://www.crrn.net

